



紙面から

- ▶「なぜ?がわかる! 図解のチカラ ~小学生新聞の原画から~」開催中●③
- ▶ゴールデンウィークイベントのご案内●④

編集・発行 財団法人 日本新聞教育文化財団

〒231-8311 神奈川県横浜市中区日本大通11 横浜情報文化センター
TEL: 045-661-2040 (日本新聞博物館) FAX: 045-661-2029
[http://newspark.jp/newspark/] e-mail: museum@newspark.or.jp

企画展

朝鮮戦争から60年 戦場の記録
2010.4.17 Sat - 6.27 Sun
N.Y. デリー・ニュース写真コレクションより

第2次世界大戦の終結からわずか5年後の1950年6月に始まった朝鮮戦争。朝鮮半島のほぼ全土が戦火に包まれました。背景には大戦後、急速に悪化した資本主義、共産主義の対立がありましたが、同じ民族同士による戦いはそれまで例がないほど悲惨なものでした。それから60年、今回の展示は米国の新聞「ニューヨーク・デリー・ニュース」の朝鮮戦争に関する写真約3600枚の中から約200点を選びました。その中には、2005年の写真展「写真が伝えた戦争」で使用した約30枚も含まれています。

(共同通信社ビジュアル報道センター写真データ部長・草野賢一)

6月25日の開戦からわずか3日で朝鮮人民軍(北朝鮮軍)はソウルに進攻します。韓国軍、国連軍は釜山近くまで後退しますが、9月の仁川上陸作戦で国連軍は反撃に転じ、ソウルを奪回すると今度は北緯38度線を越え、一時は中朝国境まで迫りました。しかし中国人民義勇軍が大規模に参戦するとまた優劣が逆転

し、結局は38度線付近で膠着状態となります。

1953年に休戦となりますが、この戦争が別名「アコーディオン戦争」と呼ばれることがあるように、前線が朝鮮半島上で北上、南下を繰り返し、そのたびに市民は大きな被害を受け、何度も戦火から逃れなければなりません。

今回のデリー・ニュースの写真は、一部を除きすべて国連軍側の従軍取材によるものです。激しかった地上戦そのものの写真はあまりありません。「軍の検閲で、兵士の死体が写ったもの、国連軍に不利なものはカットされた」との従軍カメラマンの証言がありま



韓国・浦項の戦線で、隠れていた朝鮮人民軍兵士を捕えた2人の韓国軍兵士=1950年9月(ACME)

す。その一方で、避難する市民、嘆き悲しむ市民の写真が非常に多く含まれていることが特徴です。

イラク戦争などで見られたように、現代の戦争ではピンポイントで軍事施設のみを攻撃することもできます。そういった現代の戦争と比べて、朝鮮戦争での市民の巻き込まれ方は、はるかに大規模で想像を絶するものです。ソウルが焼け野原になった写真も展示されていますが、南北市民の死傷者は300万人、避難民は500万人と言われます。さらに大量の避難民は1000万人に上る離散

(2ページにつづく▶)



国連軍によるソウル奪回後、避難先からソウルに戻るため漢江を渡り北岸に着いた避難民=1950年10月 米陸軍提供(ACME)

①

ニュースパーク



焼けて骨組みがあらわになった旧朝鮮総督府正面を横切り、前線に向かう重装備の韓国軍兵士=1951年3月(ACME)



「バンカー・ヒル」で敵の攻撃を撃退した後、前線救護所で手当を待つ韓国軍負傷兵=1952年11月(UP)

(▶①ページからつづく)
家族を生み出しました。

当時連合軍の統治下にあった日本もこの戦争と無縁ではありませんでした。戦地へ送られる米軍物資が並ぶ神戸港の写真が展示されています。また写真はありますが、海上

保安庁が連合軍の指示で掃海艇を派遣し機雷除去作業を行いました。

写真展では、少ないながらも北朝鮮、中国側が撮影した写真も展示しています。旧ソ連などの写真を扱う通信社の写真をデリー・ニュースが掲載したものです。

今年は日本が朝鮮半島を植民地にした「日韓併合」から100年にも当たります。日本の植民地支配が終わった後で南北に引き裂かれ、戦争で多大の犠牲を出した隣国のことを思い起こしてほしいと思います。

(くさの・けんいち)